

富士見市防災環境カルテ

鶴瀬西1丁目二葉 町会
鶴瀬西2丁目栄

位置番号 18

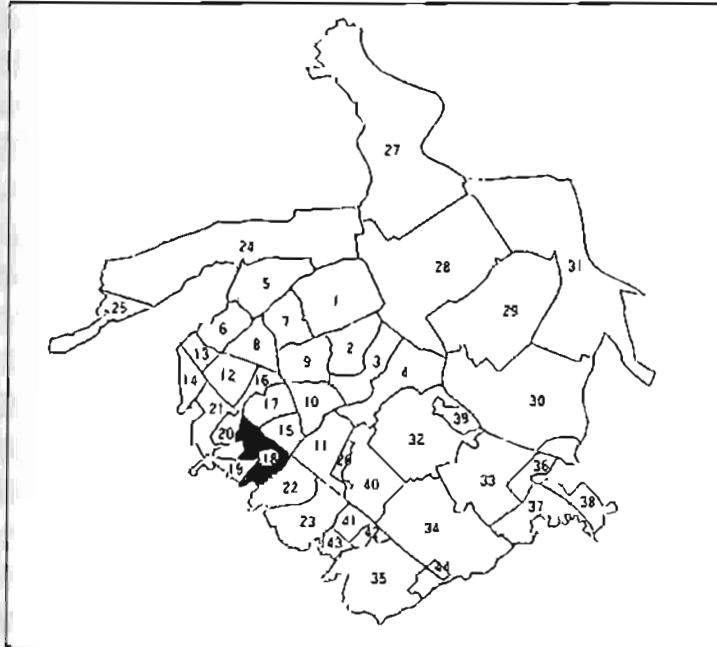
概況

鶴瀬西1丁目二葉町会、鶴瀬西2丁目栄町会は、富士見市の西部に位置し、町会全体は台地（台地段丘）で形成されているが一部分、南東側に浅い谷が見られる。東側に東武東上線、南側に県道三芳・富士見線が通り、鶴瀬駅を中心として、西出張所サンライトホール、業務施設（協和埼玉銀行、東和銀行、鶴瀬駅など）、商業施設（鶴瀬駅ビル商店街、駅前商店街など）があり、富士見市の中心市街地として、また、市の表玄関としてその役割を果している。北側には、鶴瀬西小学校、緑の散歩道「むさしの」があり、環境は、鶴瀬駅周辺の緑地、空地が残されているが、生活道路が狭隘で昼間人口が多いことから防災上の課題がある。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨のため、鶴瀬駅前派出所周辺の空地が下水路の溢水により冠水の被害を受ける内水災害が予想される。しかし、被害は少ないと推定される。

地震災害は、木造建物密集地で出火の危険性がやや高いと予想される。

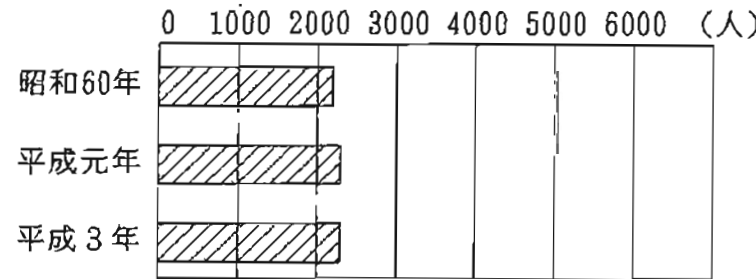
位置図



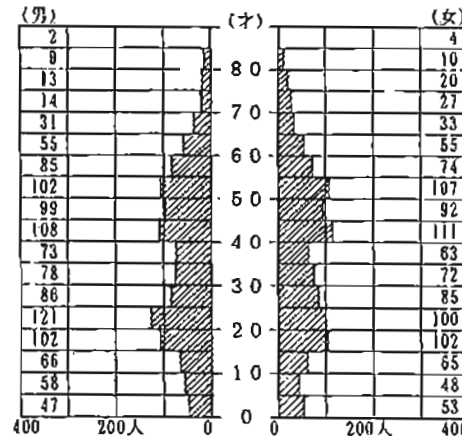
1. 基礎指標

・面積	0.236 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,051人
女	1,027人
計	2,078人
・人口密度	8,805.1人/km ²
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	13人
・世帯数	846世帯

人口推移



年齢別人口(平成3年)



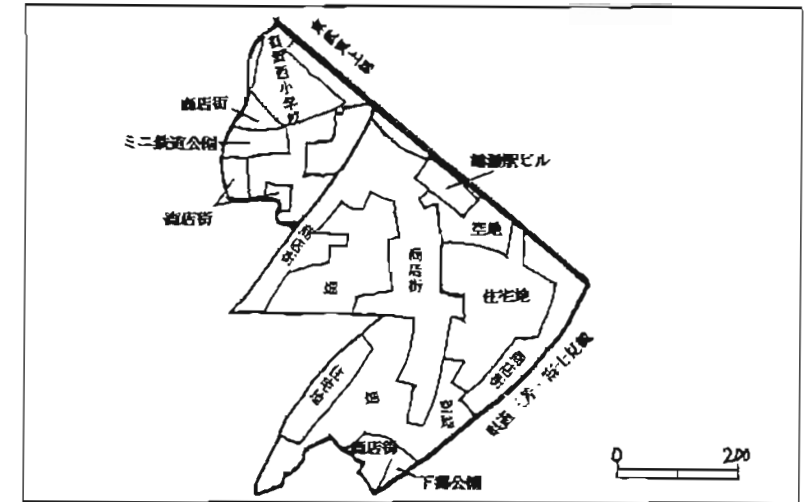
・商住工混在率住居系	77.8%
店舗系	16.9%
工業系	5.3%

富士見市防災環境カルテ

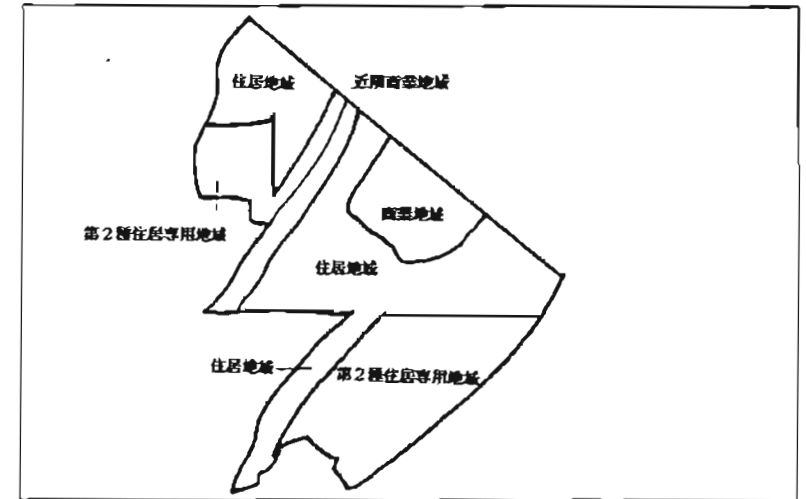
鶴瀬西1丁目二葉 町会
鶴瀬西2丁目栄

位置番号 18

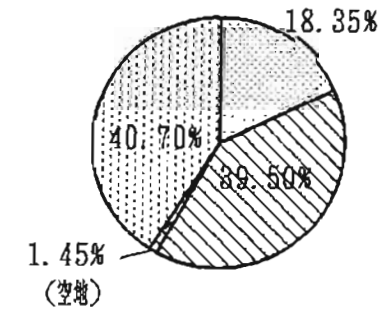
町会現況図



用途地域図



土地利用現況



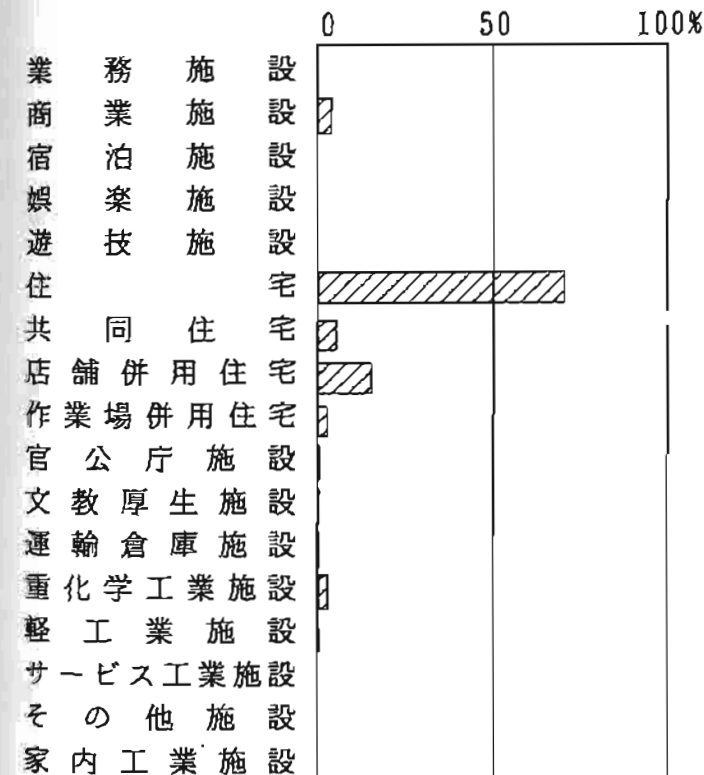
土地利用凡例

- 農地
- 山林・原野
- 市街地(宅地)
- 空地
- その他

2. 建物指標

・建物棟数	702棟
・木造建物	338棟
・非木造建物	364棟
・建物面積	33,478.20㎡
・木造建物	14,941.20㎡
・非木造建物	18,537.00㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	70.1%
・木造率	48.1% (338棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	27棟
・同上率	7.3%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	150棟 44.4%
2階以上	188棟 55.6%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	29本 122.9本/㎓
・幹線道路率	3本 12.7本/㎓
・公共空地面積	14,427.0㎡
・公共空地率	6.1%
・1人あたり公共空地	6.9㎡/人
・公共空地内容(*指定避難所)	
名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 鶴瀬西小学校*	13,427.0㎡
4. 公園	0㎡
5. 緑の散歩道「むさしの」	1,000.0㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	13本
・1消火栓あたり世帯数	65.1世帯/本
・消防水利貯水施設数	16 (3) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(瓶18号)	3棟	4棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(平成 3年 ~ 年)			1件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	13か所	加藤医院, 日鼻医院, 平野眼科 中野胃腸科, 根本外科, 堤歯科 はらだ歯科, アサノ歯科, 平澤 歯科, 鈴木歯科, 中野循環器ク リニック, 鶴瀬クリニック, サ ンコークリニック
休日診療所	0か所	
警察	1か所	東入間警察署 鶴瀬駅前派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

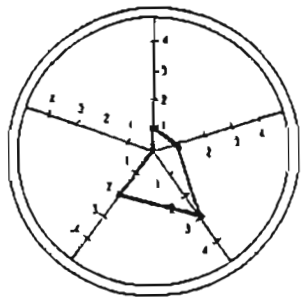
・内水災害危険度	1ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	2ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



木造建物被害危険度

液状化危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 5(+) (強震(強))

9. 地盤条件

地盤は、町会全体が台地で硬い。地盤は良好である（一部鶴瀬駅西口の南側に浅い谷が見られる）。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、浅い谷で震度6(-)（烈震の弱い方）の地震が予想される。

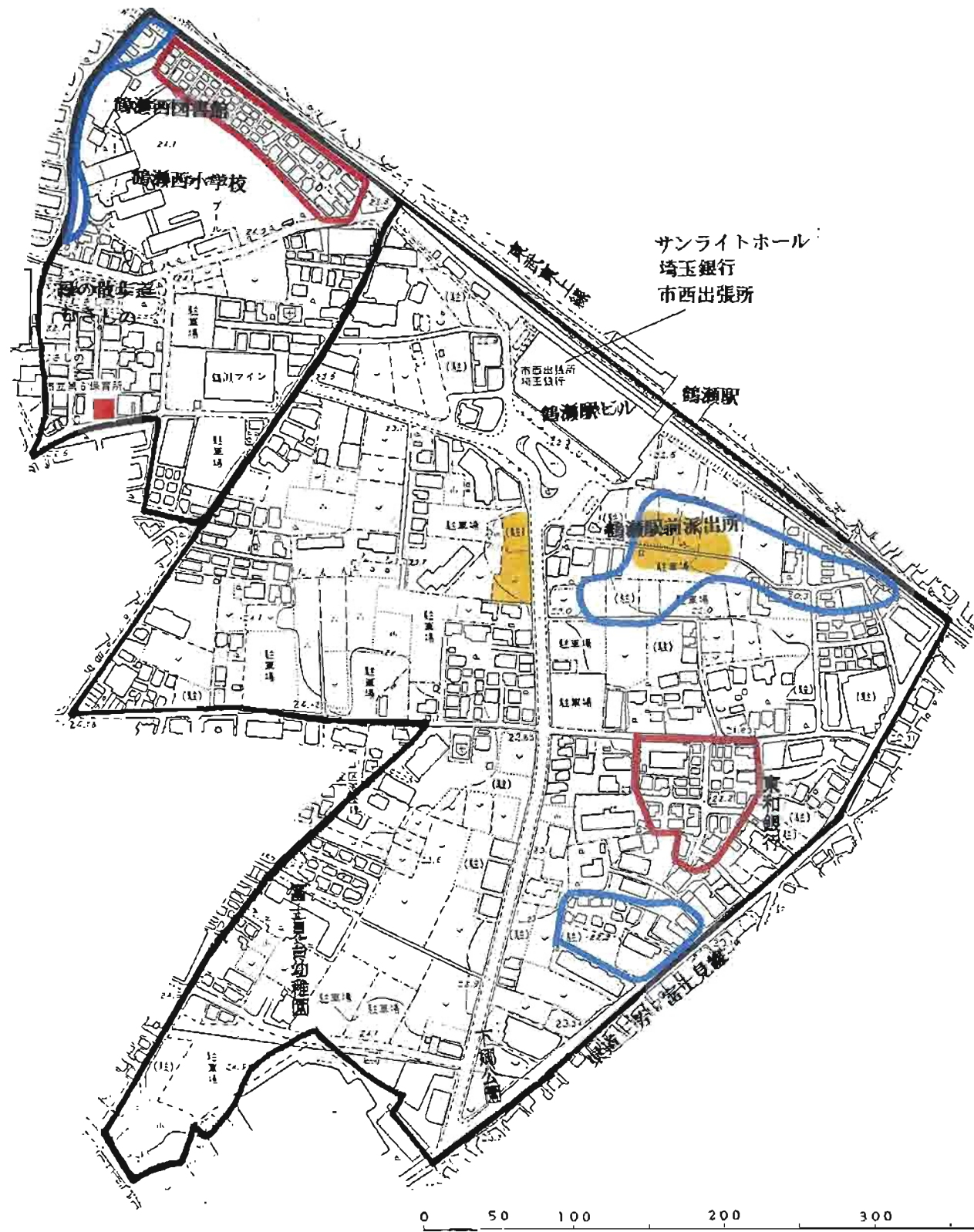
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	浅い谷の幹線道路沿いの下水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が良いため倒壊の危険性は低い。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ないが消防水利貯水施設数は十分である。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。ただし、鶴瀬西2丁目2番地、大字鶴馬2519内の住宅地では出火の恐れがやや高いので注意を要する。	4. 防火能力	鶴瀬駅西口（駅ビル）周辺の商店街は不燃化が促進されているが木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は70%以上と見込まれるため、延焼の危険性は低いと予想される。ただし、同上地域の木造家屋密集地域で延焼の恐れがややあるので注意を要する。	5. 避難収容力	町会内には鶴瀬西小学校があり、収容力は十分といえるが、他町会と共用するため、他町会に災害が発生した場合は、収容力は低くなると予想される。 1人あたりの公共空地は、6.9㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

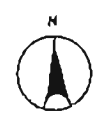
避難可能な道路の幅員は広い。しかし、避難所へ向う途中、業務施設、商業施設、商店街（ビル街を含む）を通るため、これら施設（中・高層建築物）の広告塔、看板の落下により道路が狭くなることが予想される。したがって、災害時にこれら落下物により、避難が妨げられる事を予防する事前対策の指導が望まれる。昼間人口が多いため、昼間に地震災害が発生した場合、業務施設、商業施設の従業員と不特定多数の住民が混乱しないで安全に避難できるための避難対策指導が必要である。ひとり暮らし、寝たきり老人、身体障害者（以下「災害弱者」という）については、地震災害発生時に①誰が②誰を③どこへ避難させるかの対応策等を福祉施設、病院、町会などで決めておく指導が必要である。また、災害弱者の安否確認のため、老人福祉電話、緊急連絡用電話（老人安心電話）、火災放置器兼非常ベル等の貸与が望ましい。

防災現況図A(災害発生要因)

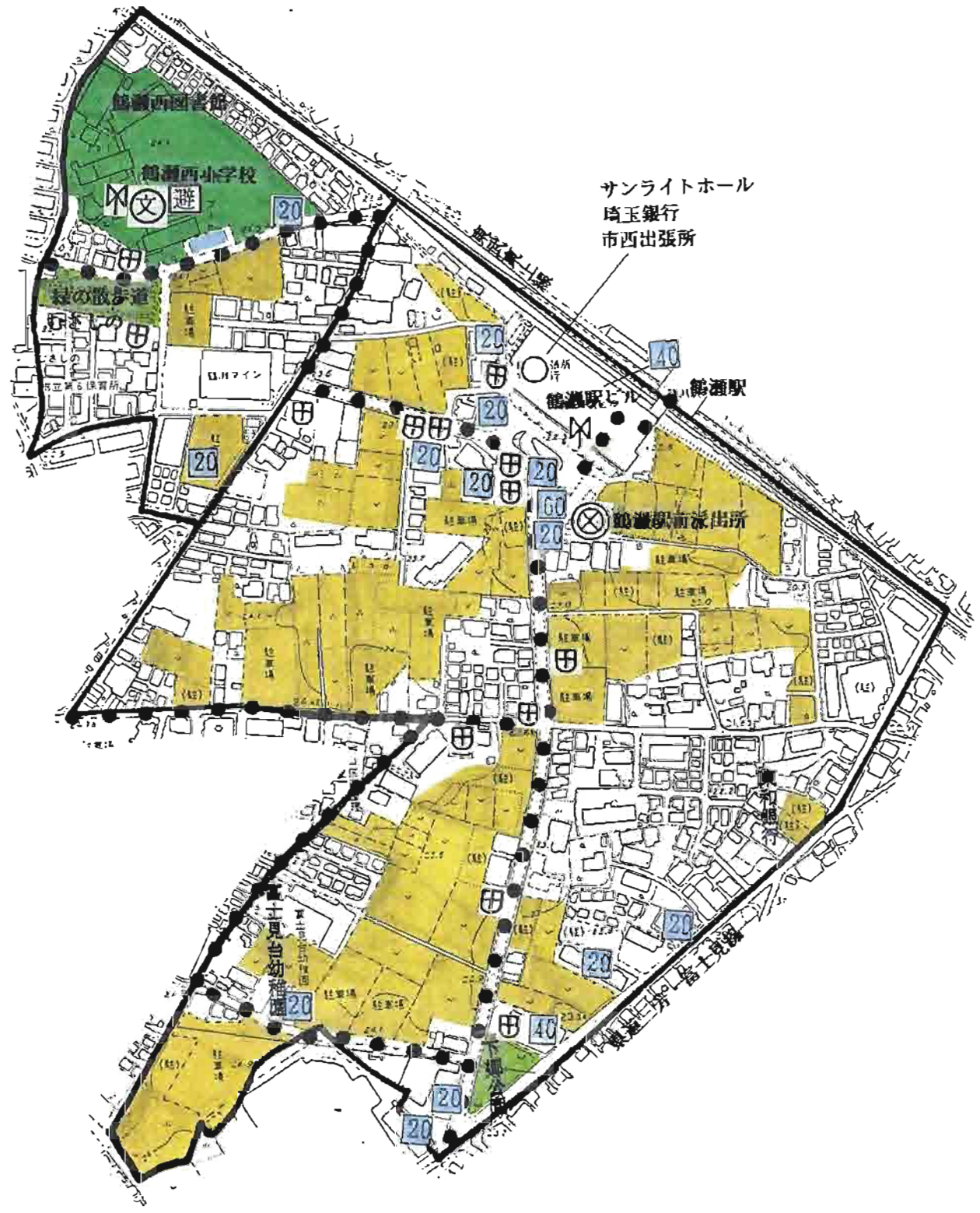


凡 例	
●	給 油 取 扱 所
■	一 般 取 扱 所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横 断 歩 道 橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑



0 50 100 200 300 400 500m